委託事業実施内容報告書

平成20年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的長期研修】

受託団体名　武蔵野大学

1　事業の趣旨・目的

「生活者としての外国人」は「仕事をする外国人」であることも多い。そこで、「仕事をする外国人」の仕事の現場で使用する日本語のサポート、ならびに、日本の職場事情の紹介相手として、「仕事をする外国人」の仕事上の悩みも聞きながらサポートするボランティア人材の養成を目的とする。

現在、武蔵野大学がある西東京市には西東京市多文化共生・国際交流センターを中心に7つのボランティア団体があり、９つの日本語教室を開いている。また、隣接する武蔵野市では、武蔵野市国際交流協会の日本語学習支援活動を展開している。

本事業では、官学地域連携の観点からこれらの自治体とゆるやかに連携しながら武蔵野大学のビジネス日本語教育のノウハウを生かした「仕事の日本語」の指導ができるボランティア育成を図る研修講座としていく。

2　企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
9月2日 16:30～ 18:20	三鷹サテライト教室	3名	①委託事業内容の確認 ②担当講師への業務依頼 ③今後のスケジュール ④講座受講生募集活動	①・事業担当責任者 ・事務連絡担当 ②講義、ワークショップ当の分担、教材の作成及び報告書の作成 ③会議日程の通知 ④イ. 近隣図書館、公民館及び東京都区市教育委員会にチラシを送付する。 ロ. 近隣小学校、市役所、教育委員会、IT企業を訪問し、協力要請をする。 ハ. 退職教員友の会、ボランティア団体等に協力要請

				をする。
10月14日 14:30～ 16:00	三鷹サテライト教室	3名	①講座講義内容の確認 ②今後の講義計画	① 受講者の現況と講義内容の確認 ② 今後の研修内容の検討
12月2日 16:30～ 17:30	大学研究室	4名	① 講座の進捗状況 ②受講者の様子	① おおむね予定通りに進んでいる。 ②課題が大変そうだが楽しんで取り組んでいる。
3月6日 19:00～ 20:30	三鷹サテライト教室	4名	① 講座報告書のまとめについて ② 講座の振り返り ③ 講座終了時アンケートについて ④ 今後のフォローについて	①「外国人児童に対する日本語指導者養成講座」同様にまとめる ② 講義、教材作成、作成教材のプレゼン、サポート実習という講座構成はサポーターへの気づきを促すことにつながったのではないか。 ③ 満足度についてはおおむね高い評価であった。 ④ 受講者からの希望でもある ML のネットワーク作りをしていく。

【写真】（会議風景）

3 研修講座の内容について

（1） 研修講座名　　「仕事をする外国人をサポートするためのボランティア講座」

（2） 研修の目標　　地域における「仕事の日本語」を指導するボランティアを養成し、
生活者としての外国人の自立を支える。

（3） 受講者の総数　　30　人

（4） 開催時間数（回数）60　時間　（23 回）

（5） 参加対象者の要件

（6） 受講者の募集方法　○大学ホームページに募集内容掲載
○朝日新聞まなびのキャンパス 9 月 4 日掲載
○東京新聞 9 月 9 日広告掲載
○朝日新聞 9 月 14 日広告掲載
○読売新聞社多摩版に募集記事を掲載
○FM 西東京に募集の広報を依頼
○区･市の役所、教育委員会、図書館、文化センター等に募集チラシを郵送し広報依頼
○武蔵野市近隣の区･市役所、教育委員会に直接訪問し関係団体に広報を依頼.

＜別添書類参照＞

（7） 研修会場
ア　講義　　武蔵野大学　生涯学習センター三鷹サテライト教室
イ　実習　　武蔵野大学　生涯学習センター三鷹サテライト教室

（8） 使用した教材・リソース
○オリジナルプリント
○凡人社『日本語教育への扉』堀井惠子著

（9） 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
10月14日 12:30～ 14:00	イントロダクション 多文化共生社会と仕事をする外国人に対する日本語教育の現状	武蔵野大学教授 堀井　惠子	29名
10月21日 12:30～ 14:00	多文化共生社会と仕事をする外国人に対する日本語教育の現状	西東京市多文化共生・国際交流センター理事 種村　政男	２７名
10月28日 12:30～ 14:00	仕事をする外国人に対する日本語教育の現状 日本語教育の基礎知識 日本語教授法について 教材作成に向けて	武蔵野大学教授 堀井　惠子	２７名

11月4日 12:30～ 14:00	仕事をする外国人に対する日本語教育の現状 日本語教授法の理論と実践 教材作成ワークショップ	武蔵野大学教授 堀井　恵子	２６名
11月11日 12:30～ 14:00	仕事をする外国人に対する日本語教育の現状 日本語教授法の理論と実践 教材作成ワークショップ	山梨英和大学非常勤講師 稲谷いく子	２８名
11月18日 12:30～ 14:00	仕事をする外国人に対する日本語教育の現状 日本語教授法の理論と実践 教材作成ワークショップ	西東京市多文化共生・国際交流センター理事 種村　政男	２７名
11月25日 12:30～ 14:00	仕事をする外国人に対する日本語教育の現状 日本語教授法の理論と実践 教材作成ワークショップ	山梨英和大学非常勤講師 稲谷いく子	２６名
12月2日 12:30～ 14:00	仕事をする外国人に対する日本語教育の現状 日本語教授法の理論と実践 教材作成ワークショップ	武蔵野大学教授 堀井　恵子	２７名
12月9日 12:30～ 14:00	仕事をする外国人に対する日本語教育の現状 日本語教授法の理論と実践 教材作成ワークショップ	西東京市多文化共生・国際交流センター理事 種村　政男	２６名
12月16日 12:30～ 14:00	日本語教授法の理論と実践 教材作成ワークショップ	山梨英和大学非常勤講師 稲谷いく子	２６名
1月13日 12:30～ 14:00	日本語教授法の理論と実践、 教材作成ワークショップ	武蔵野大学教授 堀井　恵子	２３名
1月20日 12:30～ 14:00	日本語教授法の理論と実践、 教材作成ワークショップ	西東京市多文化共生・国際交流センター理事 種村　政男	２４名
1月27日 12:30～ 14:00	日本語教授法の理論と実践、 教材作成ワークショップ	山梨英和大学非常勤講師 稲谷いく子	２５名
2月3日 12:30～ 14:00	作成教材プレゼンテーション	武蔵野大学教授 堀井　恵子	２９名

2月10日 12:30～ 14:00	振り返りと前半のまとめ	武蔵野大学教授 堀井　恵子	２６名
2月24日 9:30～ 15:00	サポート実習とその振り返り	武蔵野大学教授 堀井　恵子	２６名
2月25日 9:30～ 15:00	サポート実習とその振り返り	武蔵野大学大学院准教授 村澤　慶昭	１８名
2月26日 9:30～ 15:00	サポート実習とその振り返り	武蔵野大学大学院准教授 村澤　慶昭	２４名
2月27日 9:30～ 15:00	サポート実習とその振り返り	武蔵野大学大学院准教授 村澤　慶昭	１６名
3月3日 9:30～ 15:00	サポート実習とその振り返り	武蔵野大学大学院准教授 村澤　慶昭	２４名
3月4日 9:30～ 15:00	サポート実習とその振り返り	武蔵野大学大学院准教授 村澤　慶昭	１６名
3月5日 9:30～ 15:00	サポート実習とその振り返り	武蔵野大学大学院准教授 村澤　慶昭	１６名
3月6日 9:30～ 16:30	サポート実習とその振り返り	武蔵野大学教授 堀井　恵子	２３名

（10） 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

参加者アンケートを実施したところ 23 名から回答が寄せられた。

内容については、11 名が大変良かった、10 名が良かったと回答しており、おおむね満足な講座内容であったと思われる。講座の目的としてあげた①多文化共生社会、②仕事をする外国人の現状、③日本語教育の基礎知識についても、おおむね理解が深まったと回答している。また、ワークショップ形式で教材を作ったことについて、作成教材のプレゼンを行ったことについて、および、サポート実習についても、ほとんどが大変良かった、良かったと回答をしている。

＜詳細別紙＞

② 実施主体からの研修内容結果評価

講座の研修内容は前記のとおり、約6か月にわたり講義・ワークショップ(1 回 90 分 15 回、22.5 時間)により、講義前半は多文化共生社会、仕事をする外国人の現状に対する理解を深めながら、日本語教授法や教材作成の基礎を学び、講義後半はワークショップ形式をとり、5 グループに分かれ、職場での実務や生活者としての外国人に対する具体的なサポートのための教材作成を行った。その後、外国人協力者(留学生)を迎え、1 期 4 日間は小クラス対応サポート実習(一人 1 回の実習)、2 期 4 日間は個別対応サポート実習(一人 3 回の実習)と計 8 日間にわたる集中サポート実習(8 日間で 37.5 時間)を行った。サポート実習の午前中は、受講者がサポート実習を行い、講師、他の受講者、協力者から実習内容に対するコメント、評価をいただく。午後には、サポート内容の振り返りを行うといったハードなプログラム内容であった。

本講座講師がこの講座で求めていたものは、多文化共生社会の構築、自立的サポーターの育成、成果物を作る。の3つであった。

講義においては、ただ聴くだけではなく参加型とし、毎回課題の提出を求め参加を促した。また、受講者の仕事現場をよく知るビジネスパーソンとしての経験を生かした教材作成という成果物を産み、教材のプレゼンテーションを体験する機会も作った。さらに、サポート実習期間では、午前中にサポート実習、他の受講者はコメント・評価を行い、午後は振り返りとし、受講者の実習について講師・他の受講者と共に意見交換を行うという構成で、受講者にとってより実践的なトレーニングとなり、また、外国人協力者の反応や振り返りから、「サポートとは何か」について考える機会ともなった。2 期の実習は個別対応サポート実習ということもあり、外国人協力者のニーズ等にあったサポートの形が徐々に生まれ、「サポート」が、単に「教えること」でも一方的な「情報伝達」でもないことに実習者(受講者)自身が気づき始めたことは大きな収穫であったと思われる。

今回の講座は、講義・教材作成・作成教材のプレゼンテーション・サポート実習という講座構成により、講師は常に受講者の参加を促すよう配慮し、受講者もそれに応え、熱心な受講態度により、講座の充実につながることができた。また、受講者の満足度も高く、想定以上の成果を納めた研修であったと評価できる。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

○受講者からの希望でもある ML のネットワークを作り、受講者が個々ではなく、
つながりを持って歩んでいけるよう支援する。

○ネットワークを作ることにより、外国人支援情報を共有し、希望者がボランティアの

現場で活動できるような体制を構築する。

〇仕事予備軍である武蔵野大学大学院ビジネス日本語コースの留学生に対するサポートを検討する。

（11） 事業の成果

① 他事業との連携

武蔵野市国際交流協会、西東京市多文化共生･国際交流センターを中心に、地域のボランティア協会等と連携し、相互の情報交換により、今回の受講者がよりレベルアップができ、外国人をサポートできる機会が得られるような環境を作っていきたい。

② 研修後の人材活用

〇武蔵野市国際交流協会、西東京市多文化共生･国際交流センターを中心に、地域のボランティア協会等と連携することにより、今回の受講者が外国人をサポートするボランティアとして活動できるよう支援していきたい。

〇仕事予備軍である本学大学院ビジネス日本語コースの留学生に対するサポーターとして、今回の修了生を活用することを検討したい。

（12） 今後の課題

〇講義･教材作成･作成教材のプレゼンテーション･サポート実習という講座構成は自律的サポーターへの気づきを促すことにつながったと思われる。しかし、高いレベルのサポーターに求められているのは、外国人に対し”教え込むではなく、支える“サポートのあり方を理解し少しでも身につけた人が多くなるには、さらに経験と時間が必要と感じられる。